



県内企業の技術的拠りどころとして

所長 間世田 春作

このたび、4月1日付けで当センター所長を拝命しました。瀨石前所長同様、よろしく願い申し上げます。

当センターは1987年12月に開設されて今年で20年になります。その間、バブルの崩壊、国際競争の激化、高度情報の急速な進展、地球規模での環境問題の顕在化など、私たちを取り巻く環境は大きく変化してまいりましたが、当センターは「県内企業の技術的拠りどころ」を基本理念として、自らのポテンシャルを高めながら、研究開発と技術支援を両輪に本県産業の活性化と技術力の向上に取り組んでまいりました。今後とも、この基本理念のもと、工業技術に関する企業ニーズに的確に添えていきます。

今年度は、地域資源の高度利用、生産・加工システム、新素材・新材料、バイオテクノロジー・食品、電子・情報、環境・生活・デザインなどの幅広い分野で、主要研究7テーマと基盤研究12テーマについて研究開発に取り組みます。そして、その成果が事業化や商品化につながるよう努めてまいります。

さらに、技術相談、依頼試験・分析、人材育成、技術情報提供、コーディネートなどの技術支援の面でも、企業の新たな展開や新商品としての販売につながるような支援を進めてまいります。

そのほか、今年度から九州地域の工業系公設試験研究機関が連携して行う共同研究もスタートします。各県の人的・物的資源を相互補完し、研究開発や新産業創出のための研究機関間のネットワークをつくり、公設試のレベルアップや九州全体の地域力の向上を図ろうとするもので、当センターも「マグネシウム合金の鍛造シミュレーション技術とモデル手法による検証技術の確立」、「金型用焼入れ鋼の切削加工技術に関する研究」、「竹繊維を活用した高強度材料の開発」の3つの共同研究、「地域資源を活用した新規調味料に関

する調査」及び1つの研究会事業に参加します。

また、本県におきましては、「力みなぎる・かごしま」を推進するため、持続可能性、産業おこし及び鹿児島おこしの3つの挑戦を掲げ、平成19年度は、その実行の年と位置付けています。

商工労働部でも「新産業戦略の展開」として、自動車・電子・食品関連を重点業種に位置付け、県内自動車関連産業の技術の高度化や付加価値の高い製品の開発を支援する「自動車関連産業ステップアップ支援事業」、県内電子関連産業の新技术・新製品の開発を支援する「電子産業に関する産学官共同研究事業」、県内産食品を活用した機能性食品の事業化をめざした「かごしま食のいいものづくり支援事業」に取り組んでいます。当センターにおいても、これら研究開発事業に積極的に参加・支援を行っています。

当センターとしては、これからも「県内企業の技術的拠りどころ」として積極的に企業訪問を実施し、企業の要求するニーズや必要としているシーズ調査を行うと共にそれらに基づいた研究課題の設定、さらには、共同研究、事業化研究への展開を進めてまいります。

そして、研究成果を具体的に事業化、実用化に結びつけるために、鹿児島の産業に対する支援機関である(財)かごしま産業支援センターや大学などの学術研究機関等との連携を図りながら、本県産業界発展のために、これまで以上にその役割を果たしていきたいと思えます。

今後とも「技術支援機関」として、当センターを活用いただきますとともに、当センターに併設しています特許情報提供の中核となる「知的所有権センター」の活用もあわせてお願いいたします。

これからも、産業界をはじめ各界の皆様の御支援・御協力をお願いいたします。